

令和 6 年 6 月 川口市議会定例会

市長の所信と報告

川 口 市

本日、6月市議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には、公私にわたり大変ご多用の中、ご健勝にてご参集を賜り、厚く御礼を申し上げます。

提案理由の説明に先立ちまして、お許しをいただき、所信と市政に関する報告を申し述べたいと存じます。

私は、平成26年2月の市長就任以来、「川口の元気づくり」のため、全力で市政運営に取り組んでいるところでありますが、早いもので10年が経過いたしました。

この間を振り返りますと、私の掲げた政策を実現するためには、まずは財政基盤の健全化が不可欠という考えを念頭に、一貫した市税収入の向上に取り組み、市税収納率を、平成25年度の90.6%から令和5年度の見込みでは98.2%まで向上させることにより、市税収入未済額を、約85億円から、令和5年度見込みでは約17億円まで縮小させることができました。また、市税不納欠損額についても、約10億円から、現在は1億4,000万円まで縮小することができております。さらに、市税収入額も890億円から、1,020億円と、130億円増額でき、この10年間の増額分を累計すると、737億円の市税収入を増額させることができました。この額は、3大プロジェクト全体の事業費665億円を大きく上回るものであります。

こうして高めた財政力に加え、国費や県費なども積極的に活用することにより、これまで3大プロジェクトの着実な推進をはじめ、市産品フェアの開催など市内経済好循環の創出、保育所定員の大幅増や小中学校の全教室・中学校の全体育館へのエアコンの設置など子育て・教育環境の充実、雨水貯留施設や防犯カメラの設置など防災・防犯対策の強化のほか、再開発事業や都市基盤整備など地域の特

性に即したまちづくり施策を展開し、一般会計予算においては、10年間の累計で3,454億円の増額にまで押し上げ、多くの事業にこれを投入したことで、市政を大きく前進させることができました。

さらに、中核市への移行に伴い市保健所を設置し、設置後わずか2年でパンデミックとなった新型コロナウイルス感染症に対し、市が主体となって医療提供体制の強化や本市独自の「川口モデル」による迅速なワクチン接種の促進など、効果的な感染症対策を力強く推進することができました。

こうした取り組みが奏功し、住みやすいまちとして広く認知され、多くの方から選ばれるまちとしての高い評価に繋がったものと確信しているところであります。

一方、コロナ禍の影響が薄れ、社会経済活動の正常化が進んだことなどにより、東京一極集中が再加速し、人口を維持するための首都圏近郊の都市間競争が激化する中、私は、川口市が住みやすいまちを超えた先にある、さらなる選ばれるまちとなるためにも、引き続き、中核市として風格のある文化芸術の創造発信拠点としてリリアの大規模改修と美術館の整備を進め、さらには川口駅への中距離電車停車の実現のほか、神根総合運動公園の整備など、魅力あふれる元気な川口の未来に繋がる様々なまちづくり施策に積極的に取り組んで参ります。

次に、「SDGs未来都市」についてであります。

この制度は、国がSDGsの理念に沿った基本的・総合的なSDGs達成に向けた優れた取り組みを提案する都市・地域を「SDGs未来都市」として選定するとともに、特に先導的な取り組みを「自治体SDGsモデル事業」として選定するものであります。

今回の川口市の提案は、私がこれまで進めてきた、経済・社会・環境の各分野における本市の多角的な取り組みを、「17色で描く川口の未来、人・自然・文化の豊かさが共生する、いつまでも住み続けたい選ばれるまち川口」として取りまとめたもので、この提案が、内閣府から高い評価をいただき、2024年度の「SDGs未来都市」に選定されるとともに、埼玉県で初めて「自治体SDGsモデル事業」に選定され、去る5月23日に行われた選定証授与式において、自見内閣府特命担当大臣より直接選定証をいただいて参りました。

これに先立ち、本年3月には、川口市SDGsオリジナルシンボルマークを制定いたしました。市の花である鉄砲百合をモチーフとして、川口市立高校の生徒さんとのコラボによりデザインしたものであり、未来に向けて進める、川口市のSDGsを象徴するものとなっており、市職員はもとより、議員をはじめ市民の皆さんや市内企業・団体等の方々に、様々な場面でこのシンボルマークを活用していただくことにより、さらなる普及啓発が図られるものと考えているところであります。

私は、この度の未来都市への選定を大きな弾みとして、今後とも市民の皆さんとともに、持続可能な川口の発展と誰一人取り残さない社会の実現を目指して参る所存であります。

それでは、市政に関しまして、数点ご報告を申し上げます。

第1点は、川口総合文化センター・リリアの大規模改修と美術館の整備についてであります。

本施設は、現在、整備エリアの仮囲いの設置が完了し、リリアにおいては、内装解体が進められ、美術館においては、7月に建設工事が着工する運びとなり、令和7年12月の建物完成に向け、いよいよ本格的な整備を開始したところであります。

また、美術館の運営形態については、川口市文化芸術審議会において、美術館の運営には民間事業者の自由な裁量や柔軟な企画の展開が期待できることから、「指定管理者制度が望ましい」との意見が示され、これを踏まえ、美術館運営庁内会議で協議・検討を重ねて参りました。

その結果、新たな美術館が、開館当初から市民の皆さんの期待に応える施設として確実なスタートを切るため、より質の高い市民サービスの提供が見込める民間活力を導入した指定管理者制度を採用することを予定し、今議会に議案を提出いたしましたところであります。

私は、この制度を導入することにより、民間の有するノウハウや他の美術館とのネットワークを用いて、川口の風土や歴史を興味深く感じていただける本市ゆかりの美術作品の展示をはじめ、多様な個性や感性に触れられるインクルーシブアートの展示など、自由な発想による創造的で魅力ある企画を実現できる柔軟な運営が可能になると期待するものであります。

議案をご可決いただきました後は、年度内の公募による指定管理者候補者の選定のほか、美術館の運営について専門家から意見をいただく審議会や、美術館のコンセプトに合致した美術品を適正に評価し選定するための委員会の設置も並行して進めるなど、引き続きスピード感を持って準備を進めて参ります。

第2点は、川口市立芝西中学校陽春分校新校舎についてであります。

平成31年4月に県内初の公立夜間中学として開校した陽春分校は、これまで、旧県陽高校を利活用して授業を実施して参りましたが、約5年の歳月を経て、本年3月に旧芝園小学校の敷地内に新校舎が完成し、4月に供用を開始したところでもあります。

この新校舎では、数学や英語など習熟度別の授業が展開できるよう、可動式で大小に間仕切りできる教室を取り入れるなど、年齢や国籍の異なる生徒個々に合った、きめ細やかな指導を行っております。さらに、建物中央には、ホールや共用スペースを設けたことで、始業前や休み時間に生徒同士の交流が活発に図られているところでもあります。

私は、この全国でも数少ない夜間中学の専用校舎で、生徒が再び学ぶ喜びを感じながら充実した学校生活を送り、自らの夢の実現に向け着実に歩みを続け、将来、夜間中学の卒業生が川口で活躍することを期待しているところでもあります。

今後も引き続き、市内外の学ぶ意欲のある方を受け入れ、生徒のニーズに対応した全国モデルの夜間中学となることを目指し、さらなる教育環境の充実に努めて参ります。

第3点は、介護分野におけるボランティアを活用した実証事業についてであります。

超高齢化社会を迎え、介護分野においても従事者不足が課題となっており、本市の推計では、令和17年度には新たに約2,500人の介護人材の確保が必要になると見込んでおります。

こうした状況に対応するためには、これまでのような「専門職に従事させる」だけでなく、元気な高齢者や学生等に、デイサービスのレクリエーションや食事

の片付けなど専門職でなくてもできる業務を隙間時間に手伝うことができる、いわゆるスケッターの仕組みを取り入れるなど、新しい発想が重要であります。

そのため、本年３月にボランティアと介護事業者との間を繋ぐウェブマッチングサービスを提供する会社と協定を締結し、７月から９月まで、市内の介護事業者において無償のトライアル実証事業を行うことといたしました。

こうした取り組みは、介護分野の人手不足解消の一助となるだけでなく、高齢者のさらなる生きがいづくりや学生等の介護現場への就職にも繋がるものと期待するところであります。

今後も、介護事業者の声を聞きながら、介護従事者の労働環境や処遇改善など、介護分野の人材確保を支援するための様々な施策に取り組んで参る所存であります。

さて、今回提案いたしました議案は、予算議案１件、条例等の一般議案３０件であります。

予算議案につきましては、一般会計において、定額減税調整給付金給付事業等に係る７０億９，５４２万８千円の補正をお願いするものであります。

次に、一般議案であります、「川口市税条例の一部を改正する条例」など、条例議案９件、財産の取得議案５件、訴えの提起議案８件、専決処分の承認議案５件、市道路線の認定議案１件、人事議案２件であります。

それぞれの議案内容につきましては、この後、副市長から説明を申し上げますので、慎重にご審議を賜り、ご可決下さいますようお願いを申し上げる次第であります。